



平成30年(2018)
10/19 金曜日
◎同志社大学体育会編纂部
＜号外＞
秋の同立戦特集号
発行人 山本大輝
編集人 森戸尚俊

Doshisha
Sports
ATOM

〒602-8580
京都府上京区新町上立井
西入ル西大路町 61-1
(TEL) 075-251-3185
Web:
doshisha.atom@yahoo.co.jp
http://doshisha-atom.net/

同志社アトム

10月20・21日・3回戦

22日 13時30分

福島組

新編

必勝

わがアトム京都

満面の笑みを見せる福島孝(撮影:安本夏望)
【切り込み写真】全力で応援する部員たち



秋季リーグ順位表

- ①近 大10勝2敗 (勝ち点5 勝率.833)
- ②立命大6勝3敗 (勝ち点3 勝率.667)
- ③関 大6勝5敗 (勝ち点2 勝率.545)
- ④関学大5勝5敗 (勝ち点2 勝率.500)
- ⑤同志社4勝6敗 (勝ち点1 勝率.400)
- ⑥京 大0勝10敗 (勝ち点0 勝率.000)

1	2	3	4	5	6	7	8	9
三	遊	中	左	一	右	二	捕	投
辻	杉	小	福	添	前	小	栗	福
内	内	川	原	田	田	田	林	島
進	内	晃	原	田	田	田	林	孝

アトム予想スタメン

◆福島孝輔
(ふくしま・こうすけ) 1996年5月23日、福岡県生まれ。大阪府・大阪桐蔭高校出身。投手。右投げ左打ち。主将兼エースとしてチームをけん引。入学時から投手陣を支えてきた鉄腕は、大学通算20勝に王手をかけており、同立戦での達成が期待される。180*80*。法学部4年。

「俺」たちの雄姿を見届ける。10月20日から同立戦が始まる。秋季リーグの最終節に行われる伝統のカードは4年生にとって大学最後のゲームとなる。「新しく俺がやる」と旗印に走り続けてきた福島組。グラウンドの内外でチームを引っ張ってきた4年生が間違いない。5連敗中と相性は悪いが勝る必要はない。チームのため、後輩のため、勝利をたたひたすに迫る。

改革の経過
秋の陽が照りつけて熱気増すわがくに。スタンドの声を背に受け臨む戦士たち。心まで鋼鉄に武装する「俺」たちが、宿敵を振り回す準備は済ませた。昨年10月26日、同立戦2回戦に敗れ山岸組解散。福島孝輔の「俺」が、新チームが始動した。福島孝輔は、今季の4年生には下級生時から実戦経験を積んだ者が多い。4度の5位と2度の同立戦でのV。1勝の重みを背負ってきた世代がチームの柱として「維新」に挑んできた。

「4年間で一番いいチーム」

「4年間で一番いいチーム」
4位に終わった「維新」は選手は多かった。結果が続いた今夏も福島組は前進を続けた。新たな練習法や企画を、ベンチ入りを選んだ4年生が提案。「1人1人が力を発揮したら優勝できる」と主将の自信が揺るがず、このラストシーズンが華を閉じた。開幕からの2節、昨年の春秋の優勝4敗に苦戦を強いられた。1勝4敗で5位。早々に優勝の可能性はついた。夢は来季以降に持ち越した。これからの後輩へ向け「何か残したい」と(福島孝)。4年生は最後まで勝利への想いを体現した。福島孝の完投勝利に仕舞った。9戦連続出場。スタンドの林田(スポ4)は金色のメガホンを導入し世話をした。

次世代戦力 溝田 栗林 小川

今季好調の次世代メンバーが巧み返る4年生に勝利の花を持たせる。
右足首靭帯(じんたい)断裂の大けがを乗り越え今シーズンに完全復活を果たした溝田(スポ3)。対京大2回戦では「試行錯誤して、1球投げて、この感覚っていうのが来た」と9回を5安打1失点に抑え、大学初勝利を果たした。福島孝の後釜として次期エースに名乗りをあげる。
栗林(スポ2)は投手陣を女房役として支える。対関大1回戦で初マスクを任された。その裏には「田嶋から配球について勉強熱心だ」と周囲から認められる努力があった。溝田を初勝利に導くなど、好リードが評価され、出場機会を増やしている。
チーム1の打率を誇る小川(高2)は、スタメンに定着している。打撃好調の要因は「ボールを兎極めて自分の好きなコースを確実に打つこと」。2年生ながら、「慣れる先輩たちに挟まれた打順なので、失敗を恐れず思い切ってバットを振る」と自然体で打席に立つ。今季は首位打者とベストナインの両取りを狙い、チームに勝利を呼び込む。(川瀬 葦)

◆お問い合わせ、定期購読のお申し込みは、
<http://doshisha-atom.net/>
までお気軽に!!

レイアウト 内藤 界

